

第45回定期演奏会 日野市民オーケストラ



Hino
Civil
Orchestra

Hino Civil Orchestra

指揮 古谷 誠一

ヴァイオリン独奏 平澤 仁

ブラームス 大学祝典序曲

シベリウス ヴァイオリン協奏曲

シベリウス 交響曲第2番

2018年 6月17日(日)

14:00開演 13:30開場

全席自由1000円

ひの煉瓦ホール

大ホール

主催: 日野市民オーケストラ

〈お問合せ〉 070-4533-8396 (19:00~22:00) 山元

<http://sound.jp/hinophil/>

古谷 誠一 SEIICHI KOTANI 指揮



東京大学文学部卒業。在学中から桐朋学園オーケストラ研究生（指揮専攻）として、指揮を秋山和慶、堤俊作、尾高忠明の各氏に、作曲・ピアノを故矢代秋雄、三善晃、末吉保雄の各氏に師事。

二期会中四国支部のモーツアルト「魔笛」公演を指揮して指揮活動を始める。以降、長門美保歌劇団の「チャルダッシュの女王」、日本バレエ協会での「パーセル」、「シェヘラザード」、日生劇場での東宝ミュージカル「マイ・フェア・レディ」など活動の場を広げている。

「ドン・ジョヴァンニ」「ボエーム」「椿姫」などのオペラから「サウンド・オブ・ミュージック」「アニーよ銃をとれ」などのミュージカル、「カルミナ・ブラーナ」、ブリテンの「戦争レクイエム」、ヤナーチェクの「グラゴール・ミサ」、ウェルティ、ベルリオーズの「レクイエム」などの大掛かりな舞台作品まで、手がけた作品はあらゆるジャンルにわたっている。

また、7年間にわたり日本オペレッタ協会の定期公演を手がけ、その間「ルクセンブルグ伯爵」「マリッツァ伯爵夫人」「白馬亭」「微笑みの国」など、日本で演奏されることの少なかったオペレッタを数多く指揮して高い評価を得る。

東京フィル、東京シティフィル、新日フィル、九州交響楽団、関西フィル、N響団友オケ、名古屋フィルなど数多くのオーケストラを指揮。1997年10月にはカーネギーホールにて、オペラ「日本の夜明け」（演奏会形式）をセント・ルークスオーケストラ・ニューヨークと共に演じた。2003年10月には韓国初のオペラハウスにおいて、オープニングフェスティバル「マダム・バタフライ」を指揮して大成功をおさめる。

2005～2006年、ポローニヤ歌劇場にて研修。2008年4月に馬山市立交響楽団を、5月にはブダペストでショルティ記念オーケストラを指揮。また、落語家 春風亭小朝、宝塚トップメンバー、東儀秀樹、松崎しげると組んだ音楽会も好評を博す。現在、名古屋芸術大学名誉教授、セントラル愛知交響楽団正指揮者。

平澤 仁 Jin Hirasawa ヴァイオリン

5歳よりヴァイオリンを始め、1981年東京芸術大学音楽学部に入学。1985年同大学院に進む。同年、アスペン夏季音楽祭にて学び、第54回日本音楽コンクール（毎日新聞社：NHK共催）に入選。1986年より国際ロータリー財団奨学生として、ジュリアード音楽院に留学。1988年、同音楽院の修士課程を修了、帰国とともに東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターに就任し、その後二十年余に渡って定期演奏会、新国立劇場のオペラ、バレエ公演などの重責を果たした。

現在はソロ活動に専念。在団中もソリストとして、メンデルスゾーン、チャイコフスキ、コルンゴールドなどのヴァイオリン協奏曲を東京フィルと共に演じている他、1991年より定期的に東京文化会館にてソロリサイタルを開催し研鑽を積んでいる。

また室内楽の分野でもアンサンブル・エスパスのメンバーとしての演奏会の他、各地の音楽祭に出演。マルタ・アルグリッチ、イヴリー・ギトリス、ポール・メイエラ内外の著名アーティストと共演している。

これまでに、原田幸一郎、田中千香子、広瀬悦子、ドロシー・ディレイ、川崎雅夫の各氏に、また室内楽をヤコブ・ラタイナー、サミュエル・ローズの各氏に師事。ナミ・レコードより発売されたソロCD「虚空はるかに」（WWCC7380）は、各方面で高い評価を得ている。

今後は、これまでの経験を生かしオペラを中心としたオーケストラへの客演や歌手とのコラボレーションに加え、クラシックな室内楽からジャンルを超えたポピュラーコンサートまで多彩な活動が大いに期待されている。



日野市民オーケストラ



Hinode Civil Orchestra

日野市民オーケストラは1985年に発足した日野市を拠点として活動しているアマチュアオーケストラです。良い指導者に恵まれ、主婦、会社員、学生などさまざまな年齢層の人たちが、各地から毎日曜日に集まり練習しています。年間2回の定期演奏会を開催しています。